

青梅市文化財ニュース

第365号

平成30年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立成木小学校

この文化財ニュースでは今まで、市立第七小学校まで紹介してきました。これからご紹介する市立成木小学校は、旧成木村の学校です。この学校は旧第八小学校と旧第九小学校、旧第十小学校を1つにまとめ、「成木小学校」として平成8（1996）年に新しくスタートした学校ですが、旧八～十小のそれぞれの学校は明治の初めに「学制」が發布されてからできた学校でみな長い歴史を持っていました。

今まで何回もこの紙面で書いてきましたが、成木村が誕生したのは明治22（1889）年の市制町村制が施行されたことによるもので「・・・・・・一般ノ人民必ス邑ニ不学ノ戸ナク家ニ不学ノ人ナカラシメンコトヲ期ス・・・・・・」という「学制」は頒布された明治5（1872）年8月2日時点では、江戸時代の村そのままの上成木村上分（現6・7丁目）、上成木村下分（現3・4・5丁目）、下成木村上分（現2丁目）、下成木村下分（現1丁目）、北小曾木村（現8丁目）の5つに分かれていました。

江戸時代の末から明治時代の初めにかけては、行政が複雑で分かりにくいですが、下成木の両村（上分・下分）は岩槻城主大岡兵庫頭忠行の領地で、上成木村下分は旗本中山要人の知行地になっていました。このように、行政的に治世者が全く違う状況であり、成木地区は非常に広いので、旧の学校ごとに紹介します。

○旧第八小学校

明治6（1873）年、下成木村下分と同上分が安楽寺に「甘露学舎」を、上成木村下分が長全寺に「成木学舎」を創設しました。そして、明治9（1876）年、「甘露学舎」を「下成木学校」、「成木学舎」を「成木学校」と改称しました。ここでは下成木村下分、上分、上成木村下分という全く違った村々でしたが、小曾木地区の富岡村も含めて同じ組合村という関係にあったため、明治12（1879）年7月9日に、この2つの学校は合併して「成木学校」として長全寺に設置されます。その2年後の明治14（1881）年10月23日に本校舎の落成式を行います。そして同月、当時の神奈川県令野村靖が来校して「成木学校」の



野村 靖

・・・長州藩士入江九一の弟。野村家に養子に入ったので野村姓になる。神奈川県令の後通信大臣等を歴任する。

扁額を揮毫^{きごう}します。この額は現市立第六小学校の「江北学校」の額と並んで、市内に現存する野村靖の揮毫の額2つの内の一つです。この額は現在成木小学校の校長室に飾られています。

明治19(1886)年10月には、高等科を設置し、「成木尋常高等小学校」と校名変更され、明治22(1889)年4月1日、新しい町村制が施行され、現在の成木地区と同じ区域が成木村になりました。しかしながら、明治24(1891)年、経済上の理由から1年3ヶ月ほど高等科が廃止されます。ところが、このことを遺憾に感じた村長木崎雄蔵が私費を投じて高等夜学校を開設するに及んで、村長の行為に感激した村民たちが、村を動かし全会一致で高等科の復活を可決しました。その後、戦時中に「国民学校」と名称を変えましたが、昭和22(1947)年、「成木村立成木小学校」、さらに昭和30(1955)年、青梅市に編入合併し、「市立第八小学校」となりました。

○旧第九小学校

上成木村上分では、明治6(1873)年6月に所久保神社(現上成木神社)の拝殿を仮校舎として「上成木学舎」を創設しました。しかしながら、成木川最上流部^{いりだい}辺りからでは、かなり距離があるため、明治9(1876)年7月に入平の常福院に分校を設置します。この頃、校名も「上成木学校」となりました。明治19(1886)年2月に常福院の分校が火災になり、焼失します。そこで、明治21(1888)年11月に旧第九小学校の場所に新校舎を建築し、所久保の慈眼院に分教室を設置するも、明治25(1892)年3月にはこれを廃止して上成木学校の1つにします。

上成木学校は、このまま昭和16(1941)年に国民学校となるまで「上成木尋常小学校」の名称のままでした。旧八小の成木小学校が高等科を設置したのに対して、上分では高等科は設置されなかったようで、昭和17(1942)年になって、やっと設置されました。

戦前の学校制度は、今のように単線型ではなく、小学校に尋常科と高等科の2つがあり、小学校6年の修業年限が終わると、そのまま高等科(修業年限2年:今の中学校に相当)に進むか、中学校(5年制)に進学するかに分かれました。その後、昭和22(1947)年4月1日になって、「成木村立上成木小学校」と改称され、さらに昭和30(1955)年、青梅市に編入合併し、「青梅市立第九小学校」となりました。

○旧第十小学校

ここも明治6(1873)年、北小曾木村字正澤^{まさざわ}(旧十小の東側の澤を正澤という)の正澤寺^{しょうたくじ}に「正澤学舎」が創設されたのが始まりです。2年後の明治8(1875)年に「北小曾木学校」と改称、明治19(1886)年には旧第十小学校の場所に新校舎を建て、「北小曾木村立北小曾木小学校」として子弟の教育を行いました。そして、明治22(1889)年の町村制の施行により「成木村立北小曾木小学校」となり、戦時中の国民学校を除いて、昭和30(1955)年の青梅市編入合併までこの名称でした。昭和30(1955)年の編入合併で「青梅市立第十小学校」となりました。南側に山を戴^{いた}くこの学校は、冬場なかなか陽が当たらないことから、

校庭に手作りのスケートリンクを作ってスケートの授業を行ったりしたため、テレビに取り上げられたこともありました。

さて、旧八・九・十小ですが、成木地区は市の計画で調整区域に指定され、新規に家を建てることができないため人口減少が著しくなっています。そこで、青梅市の総合長期計画で3校を統廃合し「成木小学校」とする計画が持ち上がり、平成8（1996）年旧第八小学校の校舎を使って「成木小学校」をスタートさせました。「成木小学校」としての歴史はまだ21年と浅いですが、母体となる学校がそれぞれ明治初年の創立なので、学校としては第七小学校に次ぐ行政順となっています。

こうして、3校を統廃合して新しくスタートさせた成木小学校でしたが、児童数の減少に歯止めがかかりませんでした。そこで、平成21（2009）年度より小規模特別認定校制度を導入し、青梅市全域から児童を募集するようになりました。その結果、児童数は現在77名とのことですが、その半数近くが成木地区以外からの通学児童だそうです。この小規模特別認定校制度も、もう少しで発足十年になりますが、大分軌道に乗ってきたようで、鎌田博志校長の下、少人数の特性を生かした教育活動を行い、大きな成果を挙げているとのこと。

（文責 神森正）